



生活
文化



教育

39
まいん

あと プール跡

山頂のプールは子供の天国
現在に残るは素敵な眺め



昭和42年(1967)撮影
別子銅山記念館所蔵

プールの大きさは、7×15メートルの4コースでした。小学生を対象としていたため、深さは1メートル20センチ程度でした。利用料金は無料で、誰でも利用できました。更衣室やシャワー、ロッカーなども完備されていました。

プールができた当初、新居浜市街にはまだプールはほとんど無かったそうです。

プールは
小学校の創立50周年
に記念として昭和30
年(1955)に開設され、
昭和43年東平坑閉坑
の13年間、東平の人々
の涼を得る場所として
利用されました。



現在のプール跡

プール開きには、愛媛県出身の水泳のオリンピック選手が招かれました。

山の学校でしたが、プールのおかげでほとんどの人が泳げたそうです。

学校からプールまで徒歩で片道15分程度でした。プールの水は喜三谷きぞうだにから谷川の水を引いたので、かなり冷たかったそうです。

また、高い位置にあったため防火用水としての役割も果たしていました。



プール下のトンネルからプラットフォーム側(現在のメイン工房)
を見た様子 昭和43年(1968) 原 茂夫氏撮影

プールの下には電車の通る、小さなトンネル(通称:小マンブ)がありました。プールが開設される前は、展望台として活躍していました。池もつくられ、コイが泳いでいました。

現在は再び展望台として生まれ変わり、新居浜市内はもとより、お天気が良ければ、遠く瀬戸内海まで見渡すこともできます。

展望台から新居浜市をの眺めた様子

